

「レジオネラ尿中抗原迅速診断キット」の有用性の検討について

レジオネラ肺炎は急激に進行し、重篤で死亡率が高く、β-ラクタム系抗菌薬が無効であるために、早期に診断し適切な治療を行うことが重要です。主な臨床症状として強い呼吸困難、意識障害、高度の低酸素血症などがあげられます。検査所見は白血球数、CRP（C反応性タンパク）などの炎症マーカーが上昇しますが、LDH、AST、CPKなどの酵素も上昇することが多いと言われています。レジオネラ肺炎の治療にはマクロライド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン系抗菌薬およびリファンピシンなどが使用されます。

現在のレジオネラ菌の検出法は判別や検査手技が難しいなどの問題があり、迅速、簡便なレジオネラ菌の検出法の開発が急務とされています。このような現状から、レジオネラ菌の抗原を迅速、簡便に行えるキットが開発されることになりました。この開発のためにはレジオネラ肺炎患者さんの尿、血液の保存検体を用いて研究を進めることが必須です。

つきましては天理よろづ相談所病院での過去3年間のレジオネラ肺炎症例についての保存検体、さまざまな臨床データを参考にして新たな開発試薬の有用性を確認することとなりました。

これらの検体検査結果、臨床データは新たに患者さんの負担となるものではありません。また個人を特定できるものでもありません。本研究の目的と、臨床データ使用に関するご理解と協力をよろしくお願い申し上げます。なお、本研究に関する更なる説明をご希望の方、また、本研究において臨床データを希望されない方は下記問い合わせ窓口にご連絡下さい。

お問い合わせ先

天理よろづ相談所病院呼吸器内科 田口善夫
電話:0743-63-5611 (代)、FAX 0743-63-1530 (代)